

同様の検討を神戸波加振の場合に関しても行った。図-5, 6, 7に結果を示す。実験値は、最大加速度が入力された付近の時間の記録である。正弦波加振の場合と比べて実験値の値に対して解析値の応答加速度と回転モーメントの値が小さい。地盤反力度と震度の関係は正弦波と同じく解析結果の方が実験値よりも大きい地盤反力度となっているが、 $\alpha_p=3$ の時に実験値に近い結果となった。

4. おわりに

今回の解析では、実験値に比べ地盤バネが強く降伏までの変位が小さい値となった。また、地盤反力度も解析結果の方が実験値よりも大きくなる傾向となった。今後も実験を行い、基礎の動的解析モデルについて検討を進めていきたい。

参考文献

- 1) 日本道路協会：道路橋示方書 IV 下部構造編，丸善，1996.
- 2) 福井次郎，白戸真大，秋田直樹：地震時に基礎が受ける地盤抵抗に関する振動台実験（その1），（その2） 第56回土木学会年次学術講演会講演概要集，第1部，2001.
- 3) 福井次郎，白戸真大，秋田直樹：深い剛体基礎の大地震時挙動に関する振動台実験，第36回地盤工学研究発表会講演論文集，2001.

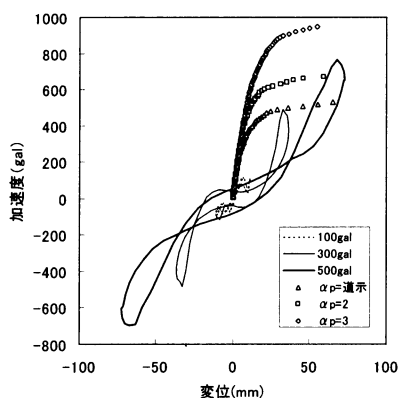


図-2 水平震度～相対変位関係（正弦波）

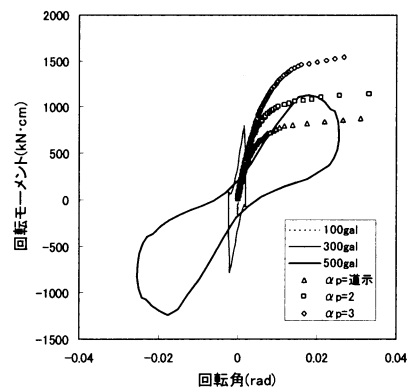


図-3 回転角～回転モーメント関係（正弦波）

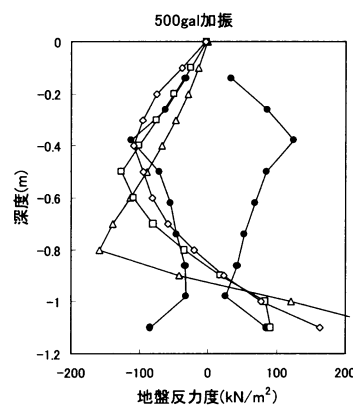
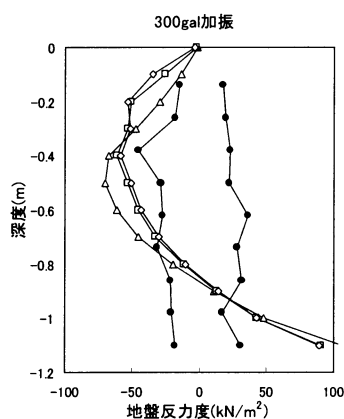


図-4 水平地盤反力度の深度方向分布（正弦波）

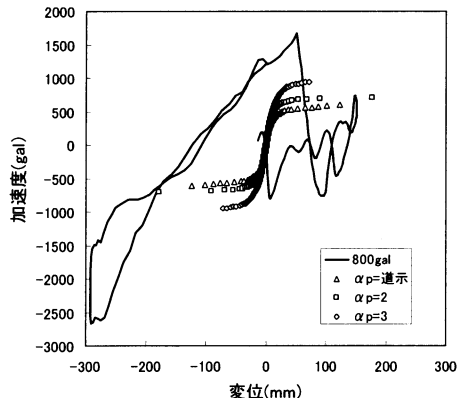


図-5 水平震度～相対変位関係（神戸波）

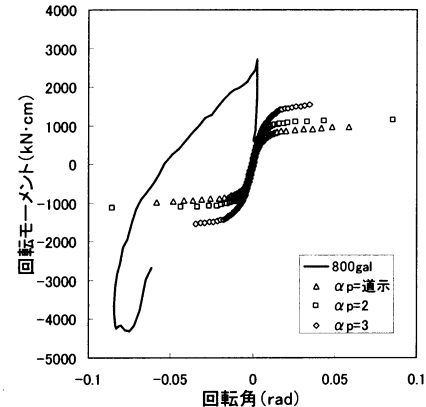


図-6 回転角～回転モーメント関係（神戸波）

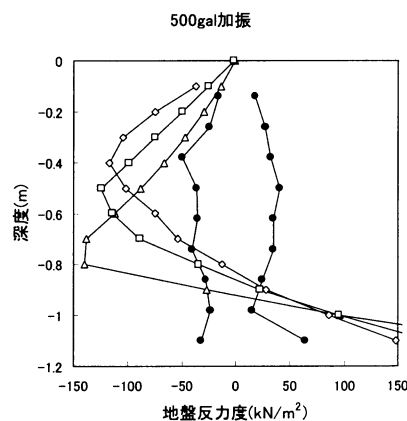
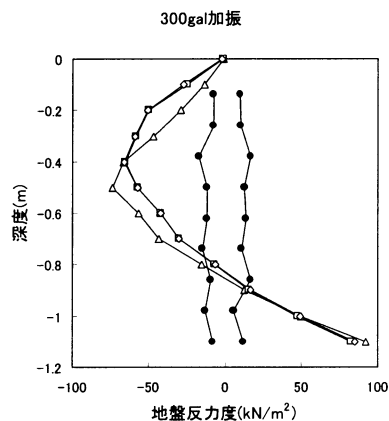


図-7 水平地盤反力度の深度方向分布（神戸波）